

## 第7回北方地域社会フォーラム代替：

### 「3連続シリーズ：北海道科学大学の地域貢献ワークショップ」

## Report of the 3 Contiguous Workshops; About Regional Contribution by HUS

道尾 淳子\* 木村 尚仁\*\* 高村 茂\*\*\* 荏原 小百合\* 小谷 彰宏\* 坂井 俊文\*\*\*

Junko MICHIO, Naohito KIMURA, Shigeru TAKAMURA, Sayuri EHARA,  
Akihiro KOTANI, Toshifumi SAKAI

### 概要

2021年度末、北海道科学大学北方地域社会研究所（RINC）主催「北海道科学大学の地域貢献ワークショップ（全3回）」をオンライン開催した。第01回「DXへの警戒心を解く」（2022年2月21日）、第02回「現世代の私たちが地域文化を表現する・担う」（2月28日）、第03回「未来のために若者を巻き込む」（3月7日）の実施報告を行う。各回、RINC研究員の話題提供、グラフィッカーによるグラフィックレコーディングを行った。参加者は本学と連携協定締結（または協定締結なく現在連携）の地方自治体・団体関係者、個人であった。

### 1. はじめに

近年、高等教育機関の役割として「地域貢献」が益々重視されている。本学・北海道科学大学の基本理念の一つもまた「地域社会への貢献」である。当企画では、本法人の100周年ブランドビジョンにある「北海道 No.1 の実学系総合大学」というフレーズに注目し、「本学の地域貢献の特徴とは何か」について、各回につき1テーマを設定し、オンラインに集う参加者とともにワークショップ形式でディスカッションを行う機会とした。

北方地域社会研究所（RINC）は、2015年度発足以来、ほぼ毎年、主要テーマをピックアップして学内外の参加者とディスカッションを行うフォーラムを継続的に開催してきた。2021年度・第7回となる今回は、フォーラム代替イベントとして、年度末の2～3月にオンライン形式で3連続シリーズ「北海道科学大学の地域貢献ワークショップ」の開催を企画した（図1）。

### 2. ワークショップ概要

筆頭の道尾は本件担当者であり、当日の司会進行を担当した。3連続シリーズの共通キーワードを「地域貢献：ひとりの力&チームの総合力」として、当研究所の実績を各研究員が各回話題提供し、学外よりグラフィックファシリテーターを招聘して一連のワークショップ記録を行う方針とした。

図2に示す本学と連携協定を締結する9の地方自治体（手稲区/上富良野町/猿払村/弘前市/幕別町/網走市/小樽市/新ひだか町/根室市）と北海道の関係者や、協定とは別に既に地域連携の実践から繋がりのある自治体・団体との情報交換や交流を図り、現連携テーマの深化あるいは新規テーマの開拓など

連携関係強化を図る。また自治体間の横の繋がりをつくる機会になることを期待し、開催を告知した。



図1. フライヤー（A4サイズ両面印刷）

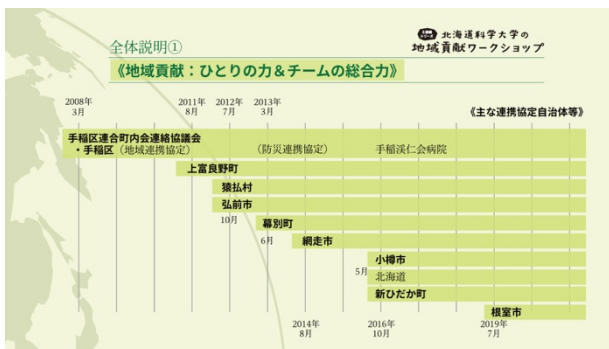


図2. 連携協定自治体等の年表（道尾作成）

### 3. 全体の流れ

全体説明と、RINC 所長による開会のあいさつの後、以下の構成で進行した（図3）。

\* 北海道科学大学未来デザイン学部メディアデザイン学科，北方地域社会研究所

\*\* 北海道科学大学工学部電気電子工学科，北方地域社会研究所

第01回プログラム [120分]	
1. 全体説明① (本日の流れ) [3分: 道尾]	
2. 開会あいさつ [5分: 木村]	
3. 全体説明② (グラフィックレコーディングとは) [3分: 田中様]	
4. ワークショップテーマ説明 [5分: 互理]	
5. 話題提供: RINC研究による研究紹介 [10分×3題: 木村・高村・互理]	
6. ブレイク [5分]	
7. グラフィックレコーディングの共有①、miroの解説 [5分: 田中様]	
8. ワークショップ (ブレイクアウトルーム利用) [25-30分: 全員]	
9. 全体ディスカッション [25-30分: 進行道尾]	
10. グラフィックレコーディングの共有② [5分: 田中様]	
11. 開会あいさつ (第01回まとめ) [5分: 木村]	

図3. プログラム進行表

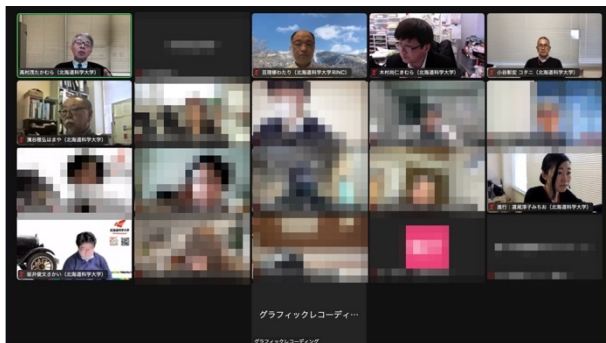


図4. ワークショップ時の様子 (Zoom 画面)

#### 4. 第1部: 話題提供

RINC 研究員 (図5) は学外研究員含めて、各人10 分間のスライド発表を行い、同時にグラフィックレコーダー (第01回: 田中友美乃氏、第02・03回: 出村沙代氏) がその内容を描く (図6)。加えて、第02回はグラフィックファシリテーションについて出村氏にゲスト講演いただいた。

《第01回》 2/21	
北海道科学大学未来デザイン学部 人間社会学科 教授 田中 友美乃 (TANAKA YUMINOBU)	フィンランドコミュニケーション学 教授 木村 尚仁 (KIMURA NAORI)
《第02回》 2/28	
まなづくら・地域創造推進センター 地域と連携する学部長 田中 友美乃 (TANAKA YUMINOBU)	メディアアート・メディアデザイン を専門領域に設定する学部長 木村 尚仁 (KIMURA NAORI)
北海道科学大学未来デザイン学部 人間社会学科 教授 田中 友美乃 (TANAKA YUMINOBU)	文化人文学、人間文化学 教授 出村 沙代 (DEMURA SASHI)
《第03回》 3/7	
北海道科学大学未来デザイン学部 人間社会学科 教授 田中 友美乃 (TANAKA YUMINOBU)	北海道科学大学未来デザイン学部 人間社会学科 教授 田中 友美乃 (TANAKA YUMINOBU)

図5. 各回の話題提供者

#### <第01回>DXへの警戒心を解く (3題)



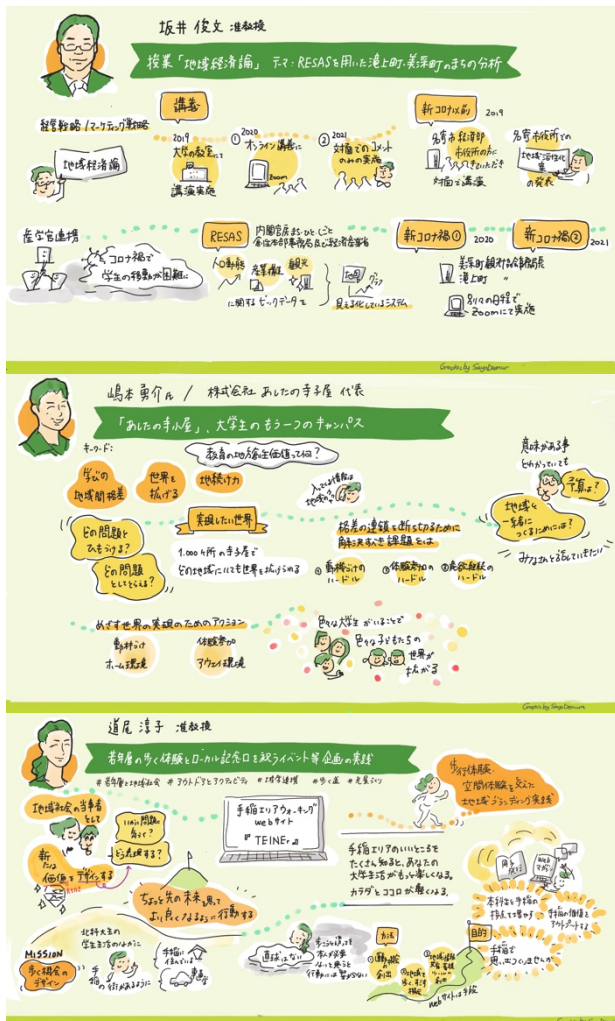
#### <第02回> (3題)

#### 現代の私たちが地域文化を表現する・担う





## <第03回>未来のために若者を巻き込む（3題）



## 5. 第2部：グループワーク

オンラインホワイトボード「miro」を用いて（図6）、参加者を交えて20～30分のグループワークを行なった。進行はRINC研究員1名が務め、事前に設定した問いをもとに参加者がコメント入力する。それぞれの地域貢献活動において直面している「DXへの警戒心」「地域文化の継承」「若者の参画」についてグループ内で発言しながら、共通の、個別の課題を共有した。



図6. Miroを用いたグループワーク画面

## 6. 第3部：ディスカッション

全体ディスカッション（25～30分）では、進行役のRINC研究員が各グループ成果（miro）を口頭発表し、そこで言語化された内容が、グラフィッカー（ビジュアルプラクティショナー）によって、さらに見える化された（図7）。



図7. グラフィックレコーディングの様子

第02回では、出村氏による話題提供「みんなで、まだ見ぬ未来を描く技術～グラフィックファシリテーション」があり、グラフィックレコーディングやグラフィックファシリテーションを含む「ビジュアルプラクティス」が、人々の対話の場面で、年齢や立場などに左右されない議論の本質に繋がることが、また多様な個人に「安心感」を与える情報になることが、具体的な地域活性の事例とともに紹介された。



図8. グラフィッカーの役割

以下は、各回ディスカッションのグラフィックである。ディスカッション後には、グラフィックを共有する時間として、田中氏・出村氏より「聞こえてきた言葉」として解説がなされた（5分程度）。

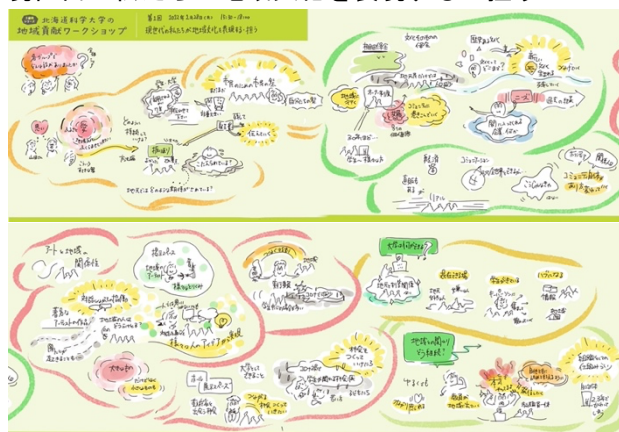
## <第01回>DXへの警戒心を解く



- DXによって業務効率化して、地域の本質的課題に向き合う時間を確保したい
- 一人ひとり選ぶツール、サービスが異なるので、その互換性に課題がある
- ツールを使ってそもそも何をするか、現状は意識やリテラシーに差がある
- 当事者間の対話をスムーズにできるのではないか

## <第02回>

### 現代の私たちが地域文化を表現する・担う



- 地域文化を膨らませる、記録を残し伝える
- 地域のための地域の祭り、文化の大小を問わない
- ボランティアや関係人口、コミュニティ自体のあり方が変わっていく
- 大学は組織として何ができるか

## <第03回>未来のために若者を巻き込む



- 学生の専門性、若者主体の学びのために
- 若者・学生はどんな大人に会いたいか、巻き込まれたいか
- 若者のやる気を搾取しない
- 地域と大学の役割（特に旅費交通費）にどのように折り合いをつけるのか

## 7. まとめにかえて

当ワークショップでは、本学における現時点の地域貢献について、学内外研究員による3連続シリーズの話題提供、参加者とのグループワーク、ディスカッションを通じて状況整理した。今後は、学生への教育活動、教員の研究活動、大学や各研究所の地域連携等、多様な実績、連携先を大学という組織に集約する仕組みが益々重要になることを確認した。

補足：

2022年度スケジュール（2023年）

- 2月16日（水）第01回WS申込〆切
- 2月18日（金）第01回WS申込者へメール
- 2月21日（月）第01回WS当日
- 2月23日（水）第02回WS申込〆切
- 2月25日（金）第02回WS申込者へメール
- 2月28日（月）第02回WS当日
- 3月2日（水）第03回WS申込〆切
- 3月4日（金）第03回WS申込者へメール
- 3月7日（月）第03回WS当日

※アーカイブ映像は参加者に対して限定公開した  
主催：北海道科学大学、北海道科学大学北方地域社会研究所（RINC）

謝辞：

事前打合せから参画いただいた株式会社たがやす出口氏に感謝いたします。